

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人堺市文化振興財団	
施 設 名	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	6,067	(千円)
公演事業	4,376	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	1,691	(千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	川口成彦フォルテピアノ リサイタルシリーズ 2022	2022年12月17日他	出演：川口成彦他 ゲスト1名 曲目：シューマン：アラベスク op. 18 他	目標値	520
		小ホール		実績値	491
2	THE フェニーチェ文楽	2023年3月4日	出演：桐竹勘十郎他 演目：火群(HOMURA) 勘十郎のえが く”お七”と”お三輪”	目標値	650
		大ホール		実績値	578
3	渡辺貞夫 with L.Aフレ ンズ	2022年4月14日中止	新型コロナウイルス感染症の影響に より中止。	目標値	1,070
		大ホール		実績値	—※
4	NDR 北ドイツ放送フィル ハーモニー交響楽団	2022年11月20日	出演：ゲルハルト・ヒツツ(ヒツツ)他 曲目：ベートーヴェン 交響曲 第3番 「英雄」他	目標値	1,464
		大ホール		実績値	1,154

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ワカテ文楽「観る前セミナー」	2023年1月22日他	講師：東晴美 ゲスト：桐竹勘十郎（1月22日）	目標値	120名
		多目的室		実績値	83名
2	ワークショップ「ゴスペルに挑戦！」	2022年9月14日他	講師：田邊裕子（フェイスゴスペルスクール）	目標値	50名
		大スタジオ		実績値	44名
3	ワークショップ「ダンスに挑戦！」	2022年5月5日	講師：セレノグラフィカ（1回目） アオキ裕キ（2回目）他	目標値	100名
		公園他		実績値	86名
4	音楽のあるひととき	2022年6月11日他	出演：大阪交響楽団 曲目：メシアン：世の終わりのための四重奏曲他	目標値	320名
		大スタジオ他		実績値	269名
5	演技ワークショップ	2022年7月23日他	講師：藤井颯太郎、古橋果林	目標値	80名
		大スタジオ他		実績値	67名
6	踊ってみよう！バレエ&コンテンポラリーダンス	2022年11月20日他	出演：バレリーナ 花井美夢／中西智美／宇多田采佳／浅井莉香（野間バレエ団）他	目標値	30名
		大スタジオ		実績値	114名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

堺市の中核文化施設であるフェニーチェ堺は、堺市の独自の文化を新たに創造し、文化による市民の交流を生み、地域文化を発信していく拠点施設である。同時に市民が心豊かな生活を実現する場であり、まちの魅力の増大による交流人口の増加や都市の賑いに寄与することにつなげていくため、施設のミッションを「見て聴いて感動する」「共につくる」「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」の5つとしている。

公演事業は、優れた舞台芸術や多彩な公演の鑑賞機会を提供するという方針のもと、注目の若手ピアニスト川口成彦が堺の文化資源であるフォルテピアノを演奏するリサイタルや、堺が発祥の地である三味線と密接な関係のある人形浄瑠璃「文楽」、市外からの集客を目的とした北ドイツ放送フィルハーモニー交響楽団の公演を計画し、予定どおりに実施できた。なお、渡辺貞夫 with L. A フレンズは、新型コロナウイルス感染症の影響により出演者が確実に来日できる見通しが立たなくなったため開催中止にせざるを得なかった。

普及啓発事業は、子どもから大人まであらゆる人々が身近に芸術文化に触れ親しむ事業や将来に繋がる次世代の担い手を育てる事業を行うという方針のもと、文楽セミナー、ゴスペル、ダンス、クラシック、演劇、バレエの事業を、地域の芸術文化団体である「大阪交響楽団」、「野間バレエ団」や地域在住の講師などと一緒に連携・協働をテーマに計画し、ほぼ計画通り実施できた。なお、バレエ講座のみ令和4年度は「鑑賞」と「実践」両方の観点からバレエに親しめる内容とする旨の変更申請を経て、計画どおりに実施できた。

公演事業、普及啓発事業はそれぞれ地域の文化振興・発展とまちの賑わいに資する事業として適切に組み立てられ、各事業の発信力が堺の魅力向上や、ホールのアイデンティティ形成と市民の誇りに繋がった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

文化的意義…公演・普及啓発の各事業は、地域の文化資源であるフォルテピアノや三味線の活用、また地域の文化団体である「大阪交響楽団」や「野間バレエ団」、地域の大学などと事業連携を行い、地域文化の発信や地域文化の振興・発展に資するつながりを持つことができたと言える。

社会的意義…三味線が堺から発祥し、その後様々な芸術文化に欠かすことのできない楽器となった歴史や後世に広がった展開・発信・保存などへの啓発・興味喚起を行うことができ、日本の伝統文化の継承や発展にもつながった。堺の文化資源の一つであるフォルテピアノは、世界的に見ても貴重なコレクションと言われており、その発信や活用が助成によって継続可能となっており、助成の意義は大きい。

経済的意義…対象公演事業の市外からの来場者は56.55%となっており、市外からの交流人口は確実に増えている。またアンケートからも地域経済に結び付いた結果がわかり、助成により地域経済の循環の一助となった。

公演事業番号1（フォルテピアノ）、4（NDR）では、「身近に質の高いコンサートが聴ける場があって嬉しい、幸せだ」や普及啓発事業番号4（音楽）、6（バレエ）で「子育てに追われているが束の間優雅に過ごせた」「一度舞台上でバレエがみたくなった」というアンケートの回答があり、文化的意義のエビデンスが覗えた。

公演事業番号2（文楽）では、「人形遣いの繊細な表現が息をして生きているようだ」「若い人にも文楽を共有したい」というアンケートの回答があり、伝統芸能の継承や発展といった社会的意義のエビデンスが覗えた。

公演事業の前後における飲食・物販・観光のアンケート結果より、約31%の方が何らかの消費活動を行っており、約27%の方が観光スポットである世界遺産の百舌鳥古墳群や市役所の展望ロビーなどに訪問していることもわかった。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標①堺市以南の南大阪や和歌山県、奈良県のうち鉄道で60分圏域からの来場者数を30%まで増加させる。

指標：公演事業（海外オケ・川口成彦公演等）における設定圏域からの来場者率

実績：設定圏域から来場者率56.55%（達成）

目標②市外からの集客を図るため、パブリシティを積極的に活用し、掲載数を30件に増加させる。

指標：パブリシティ掲載数

実績：パブリシティ掲載数41件（達成）

目標③施設の存在のPRにつながり、チケット販売先にもなる市外の団体販売先を13団体に増やす。

指標：チケット販売先としての市外の団体等

実績：チケット販売先としての市外の団体等16団体（達成）

目標④魅力ある公演の来場者の満足度を示すコメントを80%まで増加させる。

指標：公演来場者の満足度を示すコメントの割合

実績：公演来場者の満足度を示すコメントの割合61.46%（未達成）前年63.50%からの微減。

普及啓発事業

目標①普及啓発事業における堺市内居住者の参加率を70%まで増加させる。

指標：市内居住者参加率

実績：市内居住者の参加率の達成状況は65.76%（未達成）前年67.50%からの微減。

目標②フェニーチェ堺と大阪交響楽団の認知度向上のため楽団のDM会員（市内在住者）を1139名まで増加。

指標：大阪交響楽団のDM会員（堺市内在住者）

実績：大阪交響楽団のDM会員（堺市内在住者）1120名（未達成）前年1107名からの微増。

目標③普及啓発事業の広がり目標として、「初めて参加する」とした人を30%までアップさせる。

指標：初めて参加した人の割合

実績：初めて参加した人の割合19.2%（未達成）前年22.62%からの微減。

目標④事業を通じてコミュニティの形成につながることを期待し「知り合いが出来た」とした人を把握する。

指標：3つのワークショップで「知り合いができた」「新たな人間関係ができた」人の割合を計測する

実績：86.1%（初計測）

公演事業については、4つの目標指標のうち3つを達成した。市外からの集客を高め、まちの賑わいに繋がるとともに、公演の有する発信力や実施実績を市民の誇りにつなげるという部分は概ね達成できたことを評価できる。目標④は達成できなかったため、満足度向上に向けてさらに取り組みを進める。加えて、自由記述のコメントからの指標であるため、一人のアンケートの中に満足であるコメントとそうではないコメントが同時に書かれていることもあり、それをどう測るかによって実績数がぶれる可能性もあるため、今後はぶれの少ない指標を改めて検討する。

普及啓発事業については、4つの目標指標のうち3つが未達成となったが、リピーターが増加傾向にあることが一つの原因であるとアンケートから把握できる。初の試みとして施設隣接のレストランで実施したクラシック公演は参加者のうち初めての方が45%を超えたことから、新しい要素を加えることが横ばい状況から脱却し、目標に近付くための方策として有効であるとわかった。リピーターが増えていることは評価できることなので、さら新しいチャレンジを続け、市内の芸術文化の普及に資する事業を継続していく。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業番号3（ジャズ）は新型コロナウイルス感染症の影響により出演者が確実に来日できる見通しが立たなくなったため開催中止にせざるを得なかったものの、それ以外はほぼ計画のとおりに進んだ。事業番号2（文楽）に関しては、実演ができる技芸員が日本全体でも約80名程度しか存在しないことと東京と大阪での定席および地方巡業を除く部分での日程調整となるため、事業計画を作成するのが難しい部分があるが、およその実施時期と一流の技芸員を揃えることができ、ほぼ計画どおり進んだ。

普及啓発事業

事業番号1（文楽セミナー）は上記の公演事業と同じ理由で難しい部分もあるが技芸員のゲストを迎え、ほぼ計画通りに進んだ。事業番号2（ゴスペル）3（ダンス）、5（演劇）の各ワークショップはいずれも複数の仕事を抱える講師のスケジュールと施設の空き状況を鑑み、適切な事業計画をアウトプットできた。事業番号4（音楽）は大阪交響楽団と年4回の演奏会の場所をホールに限定せずに会場として設定し、場所も含めて気軽に音楽に親しむ環境を創り出しているが、12月に実施予定だった第3回は、企画構成における主導的役割を担っていた出演者の体調不良により急遽中止となった。事業番号6（バレエ）は、当初は前年度と同趣旨の企画内容での実施予定だったが、連携している地域のバレエ団との相談・協議のうえ、「鑑賞」と「実践」両方の観点からバレエに親しむ内容へと変更したため、事業変更の申請を行った。

公演・普及啓発事業とも、概ね当初の予定通りの事業期間となり適切に進めることができ評価できる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業番号1（フォルテピアノ）、事業番号4（NDR）は、ほぼ計画通りに進んだ。しかし、事業番号3（ジャズ）はコロナ禍による中止のため、事業費は全額未執行となった。また、事業番号2（文楽）に関しては、広告宣伝費の予算に対し、執行額が約38%という実績となり未執行部分が大きくなってしまったが、背景には大口の団体販売が成立した結果、当初予定していた広告宣伝を行うことなく集客ができたことによるものである。

普及啓発事業

事業番号2（ゴスペル）3（ダンス）、5（演劇）の各ワークショップはいずれも舞台スタッフの増員費を計上していたが、結果的に不要となり全額未執行となった。理由として、事業番号2は野外ステージを設営し発表会を予定していたが、雨天により小ホールに振り替えたため不要となった。事業番号3と5はワークショップの中で、講師の演技披露の場や、グループ発表の場の演出効果に備えて増員対応を予定していたが、各回全て常駐人員のみで対応できる演出の範囲だったため、結果的に不要となった。事業番号4（音楽）は、12月に実施予定だった第3回のみ企画構成における主導的役割を担っていた出演者の体調不良により急遽公演中止となったため、未執行となった。加えて、事業番号1（文楽セミナー）とともに予定していたチラシ印刷費の減額などもあり、不要額が出ている。

公演・普及啓発事業とも、概ね当初の予定していた事業費の中で適切に進めることができ評価できる。しかし、普及啓発事業の舞台スタッフ増員費等は、常駐人員で可能な範囲がおおよそ把握できたため、次年度以降の予算の精査に努め、より一層適切な事業費の積算とする。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業

事業番号1（フォルテピアノ）は、地域の文化資源であるフォルテピアノコレクションの活用を当ホールのスタッフがアーティストの提案を受けて共に考えることで、その魅力をさらに深く認識したことが成果である。事業番号2（文楽）は、その上演に欠かせない三味線の発祥が堺であることの意識を持ったうえで、立地的にもそう遠くない国立文楽劇場とは異なる魅力をどう発信するか、そのためにどのような工夫が必要なのかを、関係者や当ホールの広報スタッフも一緒になって考える機会を持てたことが成果である。事業番号4（NDR）は、当ホールスタッフが海外オーケストラの受け入れと事前PRの手法・手段を学ぶ機会となり、どのように海外の演奏家にアプローチするか等を自ら考えることができたことが成果である。加えて、これまであまり関与の無かった大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館にPRの協力依頼に出向き、後援名義の承認をいただいたほか、公演当日に首席領事が鑑賞に来られたことも成果である。

以上の成果が事業内容や広報活動に反映され、アーティストや関係者ととともに考え、創っていくという行動が制作ノウハウの向上につながった。他所にはない、地域が有する魅力や地域の独自性を発信することのできる公演活動となったことで、来場者の公演満足度や集客を維持向上することにも繋がり、ひいては地域の文化水準の向上をはじめ、地域の文化拠点としての活動を最大限に発揮する優れた事業であったと評価できる。

さらに事業番号4は、公演後に領事館主催の芸術文化の集まりにも誘われ、参加したことで、地域の文化拠点としてフェニーチェ堺の国際プレゼンスを向上させる優れた事業にもなり、更なる評価を加えることができる。

普及啓発事業

事業番号4（音楽）は、令和4年4月に当ホールを管理運営する堺市文化振興財団と大阪交響楽団が事業協定を結んだこともあり、これまで以上に活発な意見交換を行い、地域の音楽文化をどのように推進していくのか等についてお互いの役割を確認・認識しながら企画を検討するようになったことが成果である。

また、事業番号1（文楽セミナー）・2（ゴスペル）・6（バレエ）は、地域在住の関係者や講師、地域の文化団体と連携することで、改めて地域の文化資源からの人脈の広がりなどを認識できたことが成果である。事業番号3（ダンス）は企画段階からアーティストとの対話で進めることに加え、今年は市内にキャンパスのある関西大学とこれまで以上に連携できたことが成果である。事業番号5（演劇）についてもアーティスト（実演芸術家）と事業担当者等が企画内容について直接意見交換する機会が多く、今回は4回目のワークショップを大ホール舞台で行うにあたり、技術スタッフとも綿密に内容を詰める機会が生まれたことが成果である。

以上の成果が事業内容に反映されるとともに、特に都度の細かいワークショップの内容などを発信できるSNSを中心とした広報活動に反映された。

地域を拠点にしている人や文化団体との様々な調整は、団体が抱えている問題や地域の課題なども直に聞く機会にもなり、改めて地域の文化振興や地域のニーズを考える機会となった。地域のニーズをより深く考え、そのニーズに沿ったアイデアを具体的に形にする過程において、自らの組織内に存在する舞台技術者と演出効果やコストについても相談することは制作ノウハウの向上にも効果的であった。回を重ねるたびに効果的・効率的な事業活動となり、地域の文化拠点としての活動を最大限に発揮する優れた活動であったと評価できる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業

事業番号1（フォルテピアノ）では、アンケートに「19世紀のピアノが現存していることに驚いた」という意見やSNS（instagram）にも「フォルテピアノに魅了された」という意見があったことから、興味喚起の機会となったと考える。また専門誌での記事もあり首都圏からもお客さんがきている。事業番号2（文楽）では、アンケートやSNSでも、身近な場所での文楽の鑑賞機会が得られる喜びや、「意義深い」などの意見、芸芸員の鼎談の魅力やトークがわかりやすかったとの感想を得た。事業番号4（NDR）は、SNS（instagram）では、演奏の質の高さを評価する声が多く、アンケートでは食事と演奏会のキャンペーンが良いという意見があり、付加価値を付けたことが参加の動機付けになることがわかった。他にも「遠出が出来ないが身近で聴けて嬉しい」と言った意見や「元気をもらえた」等、高齢者と推測される地域の方々の反応が好評であると感じている。

普及啓発事業

事業番号4（音楽）では、「気軽にクラシックが楽しめてうれしい」「ホールの舞台上で聴くなんて初めて」「舞台からの客席を観たかった」「客席を観ながら生演奏を聴くなんて楽しい」「楽器が近くて大好きになった」など、ホールにこだわらない会場設定が音楽を聴ききっかけになっていることがわかる。「普段は子育てに追われているがつかの間の時間をゆっくり優雅に過ごせた」などのアンケート回答もあり、様々な立場の人々が音楽に触れる場となっている。事業番号6（バレエ）では、「これまでよくわからなかったけど、すごく近くで見えて考えがかわった」「目の前まで迫ってくる迫力がすごい」「目の前のバレエの演技はとても興味深かった」「初めて経験して満足」「鑑賞するより楽しい」という実演を間近で見れる驚きや感動からの意見や「知人を誘いたい」「劇場で生のバレエを観たいと思った」という次の行動へ一歩となっている。事業番号5（演劇）では、「様々な世代と交流し、学び、カラダを動かす場が新鮮」「学びが多い」「グループワークのむつかしさ」など実際に参加・体験するワークショップならではの回答が多く、SNS（Twitter）では皆で一つの作品を完成させた達成感などが聞けた。事業番号2（ゴスペル）では、8回連続講座ゆえの新しい友人関係が広がったと感じる人が多く、コミュニティ形成への一助となっている手応えがある。事業番号3（ダンス）では、「コンテンポラリーダンスというジャンルを知れて良かった」「日常を忘れて思いっきり楽しむことができた」「若いエネルギーや活力を自分も得ることができた」「自分の体と向き合う機会ができて良かった」という新しい感覚を身につけた参加者が多く、「スタジオに通いたい」「近くに良いWSをしてくれる劇場があって良かった」という意見からリピーター獲得への一歩にもなった。事業番号1（文楽セミナー）では、高齢者を中心に「楽しいセミナーで本番が楽しくなった」「より深くより面白く観れそう」という本番につながる興味喚起ができた。

公演事業は、市民をはじめ多くの人々が、堺のアイデンティティを感じる文化資源を認識したことや身近に質の高い芸術文化に触れる機会ができた点において、地域の文化振興に繋がったと言える。

また、普及啓発事業では、事業をともに実施している大阪交響楽団（令和4年4月に事業協定を締結）や野間バレエ団などは地域への芸術文化の普及という目的のもとホールスタッフと意見交換をする機会が増えたことから、事業の目的や意図をより深く捉え、理解してもらえるようになり、各々の地域での役割認識がより一層進んだ点において、地域の文化振興につながったと言える。同楽団とは市内の他の文化会館に波及していく事業も生まれている。

身近なホールの事業を通じて、芸術文化の鑑賞機会や体験・参加できる機会が増加していることは、自らの生活に少なからず刺激や変化が生まれること、文化団体や関係者が意欲的に堺市内で活動することとなり、地域の文化芸術の発展や活力ある地域社会の構築につながるもので、大いに評価できる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営

積極的な多目的ホールとして、堺の文化資源等を活用し、まちの賑わいにも資する公演事業や、市内芸術文化団体との文化講座やワークショップなどの普及啓発事業に至る多彩な事業を行うことで、企画制作担当課のスタッフ全員が様々な経験を積むことができています。同課スタッフのうち、事業担当者は事業以外の広報（SNS等）や営業、経理などを担当するようしており、また広報の担当者も最低一つは事業を担当するようしている。

また、事業担当者は継続して担当する公演と新規に担当する公演を混在して受け持ち、継続公演には経験を活かした改善と応用に取り組むとともに、年々積み重なる知見をジャンルの新規公演に活かすといった担当者個々の中で「蓄積」と「応用」が個人の中で確立されるようしている。主にベテラン勢が業務の中で培った人的ネットワークなども経験の浅いスタッフに共有されるよう主担・副担制を導入し、事業運営のPDCAとして組織力の強化を図っている。なお、障害者対応や危機管理対応などに関連する事業は敢えて毎年担当を代え、個々の意識を引き上げるようにすることで、組織全体の質を高めるようしている。直接雇用の舞台技術スタッフがいることで技術の承継や様々なアイデアを形にする刺激などが生まれ、実践的な学びの場ともなっている。

経営戦略

団体としての自律的な経営をめざし、自己財源比率の向上をテーマにチケット収入の増加をはじめ、寄附・協賛金、助成金などを獲得するための運営スキームを構築する。また、団体としての適正な規模を再検討し、スリムで持続可能な団体をめざしている。

人事戦略

安定した運営をめざして、有期雇用職員を正規職員へ徐々に切り替えを行い、専門人材を確保し、今後採用される人材は専門人材から様々なノウハウを引き継ぐことで、将来に向かって持続可能な組織運営となるよう人材のPDCAを構築中である。

ネットワークの構築

公益社団法人全国公立文化施設協会、公共劇場舞台技術者連絡会、劇場・音楽堂等連絡協議会へ参画し、劇場間のつながりを強め、自ら実施しているアートマネジメントセミナー（舞台技術研修会を含む）で、ネットワークをさらに広げるようしており、今後の事業の共同制作なども視野に入れている。

中長期経営計画

公益財団法人堺市文化振興財団は、上記の各要素を含み、またフェニーチェ堺の管理運営にも大きく関連する「中長期経営計画」を2023年度中に策定する予定であり、組織内議論が進んでいるところである。自律的経営のための、事業運営、経営戦略、人事戦略等の方針すべてが記され、PDCAサイクルによって、それらが運営されていく位置づけが確立される。

以上のことから、今後も持続的に発展する要素を備えており、地域の文化振興を担っていく存在であると評価できる。